

今こそ求められる**減災対策**

# 都市の危機管理における 路面下**空洞**対策

オールジャパンで  
国土強靱化を



レジリエンスジャパン  
推進協議会

定員**200名**様

平成29年 **10/26** 木

開催日時 13:00～16:30(12:30受付開始)

開催場所 鉄鋼会館  
〒103-0025東京都中央区茅場町3-2-10

## 来賓挨拶 古屋 圭司 氏

初代国土強靱化担当大臣／衆議院議員



ご紹介いただきました古屋圭司でございます。初代大臣というご紹介をいただきましたが、私はいつまでたっても初代ですので、いつもこうやってご紹介いただいております。初代というのは白地のキャンパスに絵を描くことが許されます。私は1年半かけて国土強靱化基本計画をつくりました。ここにはその時のチームの仲間である藤井先生ほか皆さんいらっしゃいます。強靱化を進めるに当たって、この計画は、今、それぞれの分野のいわばバイブルになって、様々な取り組みが進められております。これは私にとっても本当にやりがいのあるものでした。今、小此木大臣が就任されておられますが、小此木大臣も我々が作り上げたこの強靱化計画をしっかりパワーアップしてやっていただけると本当にありがたい限りです。

国土強靱化基本計画の中で、毎年アクションプランが組まれます。今年は国土強靱化アクションプラン 2017 を6月に閣議決定させていただきましたが、ここでも地盤の調査等々につきまして、幾つかの新しい文言も取り上げさせていただきました。

このレジリエンスジャパン推進協議会は、メルマガ会員などを入れると現在 8000 社ぐらいと相当大きな組織になってきました。この強靱化（レジリエンス）には大きなビジネスチャンスがたくさん埋まっております。これをいかにうまく引き寄せていかはそれぞれの企業の皆様のご判断でしょうけれども、そういった新たなビジネスチャンスができるようにと思

っています。

もう一方で、安倍政権は今回の選挙でも皆さんから厚い信任をいただきました。したがって、今の政策をさらに加速していきなさいという信任をいただいたわけであって、決してリセットするということではないということが我々にわかりましたので、その推進をしていきたいと思っています。その中で、生産性革命を一つの柱にしておりますが、これは技術の高度化だと思えます。これから人手不足が深刻ですので、そういったものにどうやって変わっていくか、そして制度とかクオリティをいかに高めていくかというのが、安倍政権の次の課題です。アベノミクスはもちろん進めますが、一方で十分でなかったところをしっかりとそこで補強していくということです。

特にこの地盤の問題にも同じことが言えると思います。今まではどちらかというと、内科検診でいうと聴診器を当てる問診ということで、ずっと橋や道路の検査をしていました。この世界は技術革新が非常に急速に伸びてきております。今日は高島市長もお見えですが、去年の博多駅前の地盤沈下にも新しい技術をたくさん使って対応しました。あれは、時間もコストも大幅に節約できるという一つの例だと思います。ただ問題は、今、直轄国道一つとっても、平成 27 年度ベースで実際に陥没しているところが 160 か所近くあります。さらに補助国道、二級国道、あるいは県道、主要地方道等々になると、その数は大変な数字になります。それだけでなく、橋も検査します。

ただし、本当に悪いものはどれか、あるいはどの程度で補修をやっていったらいいのか、そのタイムスケジュールを決めていくためには、新しい技術をふんだんに入れていかなければいけないということで、平成 29 年度から国土交通省は新技術情報提供システム（NETIS）を活用して技術公募しています。ですから、新しい技術をしっかり科学的に分析し、一番すばらしいものが採用されていく時代だと思えます。この分野に取り組んでいる業者の皆さんはたくさんいらっしゃいます。ビジネスチャンスは多くあるけれども、一方では大変厳しい競争にもさらされていくということだと思えますので、ぜひ自らの技術を大いに高めていただきたい。結果的には、それが国益として国民の安心・安全に間違いなくつながっていきます。そして国の財政にも影響を与えて、効果的にレジリエンスを構築することができると思えます。

国土強靱化アクションプランには幾つかキーワードがあります。例えば、「地域交通ネットワークが分断する事態」という項目の中に、「路面下空洞や橋梁の点検等の高度化・効率化に資する民間技術の導入を進める」とあります。これはまさしく皆さんが狙っているところだと思えます。

二つ目が、リスクコミュニケーションの分野で「関係省庁及びレジリエンスジャパン推進協議会等の民間団体等と連携しつつ、国土強靱化に対する国民の意識を高めるためのコンテンツの開発や、ハザードマップ、地盤情報等のリスク情報のデータベース化等及び普及を促進する」。

三つ目が、老朽化対策の一環として、「真に必要なインフラにおける点検・診断、修繕・更新、また点検情報等の整備により、円滑なメンテナンスサイクルを構築する」。

四つ目が、「非破壊検査技術やロボット技術等の新技術・IT の活用により、社会資本の維持管理・更新システムを高度化し、インフラ管理の安全性、信頼性、効率性の向上を実現する」。

そして最後に、「路面下空洞や橋梁の点検の高度化・効率化に資する民間技術について、要求性能に基づく技術の公募、フィールド実験、評価を行い、現場導入を推進する」とあります。要するに品質をしっかりと確保していくということが極めて重要だと私は思っております。ぜひそういった視点に立っていただきたい。

今日は関係者の皆さんが一堂に会する有意義な会合です。日本は、地震も多い、災害も多い、そしていよいよインフラの更新の時期も来ております。日本人の知恵と技術をもって、そういったことを克服していくことに取り組んでいただきたいと思えます。我々がつけた強靱化は、単にマイナスを減らすということではありません。それを克服することによって成長戦略にもつなげていくという大きな目標があります。ぜひそんな取り組みを民間の立場からご支援いただきますように心からお願い申し上げて、初代強靱化担当大臣としてのご挨拶に代えます。ありがとうございました。